

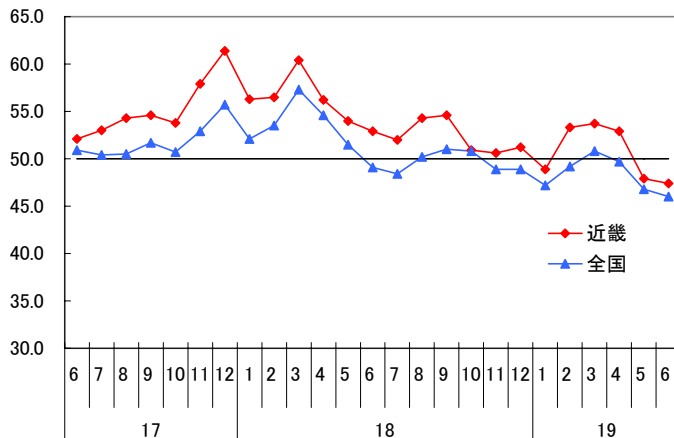
○景気の現状判断DI(6月)

近畿では、
前月から-0.5ポイントの47.4
3ヶ月連続で前月を下回る

全国では、
前月から-0.8ポイントの46.0

※「景気ウォッチャー調査」
平成19年7月9日 内閣府公表
※近畿は2府4県
※DIが50を上回れば景気は「良い」、
下回れば「悪い」と判断できる。

景気の現状判断DI



※各機関による近畿の景況判断【月次】

・日本銀行大阪支店:「近畿地域金融経済概況」
(平成19年7月6日公表)

近畿地域の景気は、拡大を続けている。

すなわち、輸出は、海外経済の拡大を背景に、増加している。設備投資は、企業収益が高水準を続ける中、増加している。雇用情勢は改善を続けており、個人消費は全体として緩やかに増加している。他方、公共投資は減少基調にある。こうした需要動向を反映して、生産は増加基調にある。この間、企業の業況感は、引き続き良好である。

・近畿経済産業局:「近畿経済の動向」
(平成19年7月18日公表)

近畿経済の動向は、生産は横ばい、個人消費は概ね横ばいであるなか、設備投資が増加、輸出も伸びが鈍化しているものの好調に推移、雇用も改善するなど、引き続き**改善している**。

※全国の景況判断【月次】

・内閣府:「月例経済報告」
(平成19年7月17日公表)

景気は、生産の一部に弱さがみられるものの、回復している。

先行きについては、企業部門の好調さが持続し、これが家計部門へ波及し国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

- * 企業収益は改善し、設備投資は増加している。
- * 雇用情勢は、厳しさが残るものの、改善に広がりが見られる。
- * 個人消費は、持ち直している。
- * 輸出は、横ばいとなっている。
生産は、横ばいとなっている。